

施工業者様用〈施工説明書〉

スチールフラットバー手すり

施工方法については
こちらの動画をご確認ください。

このたびはウッドワンの商品をご採用いただき、誠にありがとうございます。

施工前にこの施工説明書をよくお読みいただき、安全に正しく施工されるようお願い致します。

製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害・財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」をよくお読みください。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りいただき、内容をよく理解して正しくお使いください。

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために必ずお守りください



注意

施工に際して以下の警告・注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。



警告!

- 躯体の強度を確保してください。
階段が取り付け位置には、十分な強度のある柱・間柱・胴縁や梁・大引などの下地があることを確認してください。
- 指定の固定方法で取り付けてください。
- 指定の下穴をあけてご使用ください。
- 取り付け後にガタツキ、緩み、ビスの締め忘れがないか確認してください。
- 万が一ガタツキ、ヒビなどの不具合を発見した場合は、直ちに使用をやめて取付業者または販売店にご連絡ください。



注意!

- 2階ホールの手すりの高さは1,120mmとしてください。
- 屋外や、浴室などの湿度が高い場所にはご使用できません。
- 開梱後は換気を行ってください。本製品は、ホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品ですが、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすいため、換気を行うようにしてください。
- 階段の勾配が45°を超える場合は、手すりを両側に取り付けてください。
- 階段部分の手すりは踏面先端（段鼻先）から垂直に850mmの高さとなります。
- 手すりは連続して取り付けてください。
- 手すり端部はぶついたりひっかけたりしないように配慮してください。

施工の前に

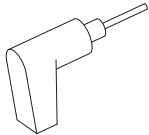
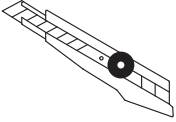
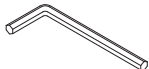
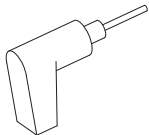
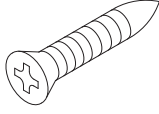
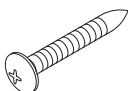
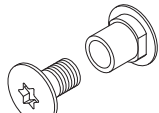
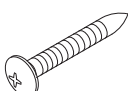
本製品は邸別で納まり図面を作成し、製造されるため部材形状は現場ごとで異なります。開梱後仮並べをして、部材の取付部位を確認して下さい。

お願い

安全に快適に使用していただくために、理解していただきたい内容です。

・下穴はネジ径の80～85%を目安としてください。

I. 階段手すり

施工フロー	注 意 点	使用 工 具	主 要 締 結 部 品
躯体条件 階上階下フローリング 施工完了 吹抜け框の施工完了 造作階段の施工完了 支柱足元プレートの取付	納入タイミング 取付タイミング 金物固定ピッチ 搬入時の傷、 床面の損傷	 電動ドライバー ※+ドライバービット 2番、3番 ※キリ:φ3、φ3.5、φ4  カッター、はさみ  ヘックスロープ (T-27) レンチ (付属)  電動ドライバー ※ヘックスロープ T-27ビット(付属)	 皿タッピングビス φ6×35  ヘックスロープ化粧平ボルト M6×10 (支柱下部固定)  丸木ネジ φ5.1×63 (支柱段鼻固定用)  ヘックスロープ 化粧平ボルトナットセット M6×10 (支柱固定用)  トラスタッピング φ4×35 (壁固定用)  ヘックスロープ化粧平ボルト M6×8 (ブラケット固定用)
基本スパンの取付 トップレールの取付	手すりスパン 配置位置 壁面の損傷 天板の段差 及び通り		
接続金具、 壁固定金具の取付	向き・サイズ・ 取付位置	※施工の際は、必ずビス・ボルトサ イズに合う工具を使用してくださ い。ビス頭がなめたり、ビスが破 壊する原因となります。	

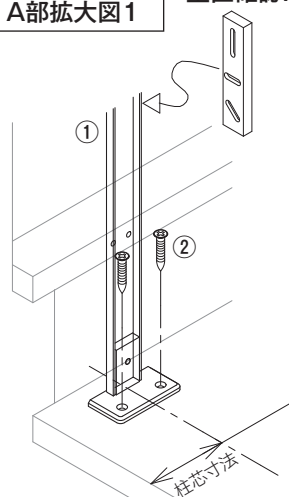
最上段 支柱カバーセットの取付

- ・ 邸別割付図を参照し、支柱カバーセット階段部（アンカー側）①の取付位置の墨出しを行う。
- ・ A部拡大図1に示すように、段板端から支柱芯（露出階段の場合は、段板端から支柱芯までを45mm以上にしてください。）までの寸法を押さえ正確に墨出しを行う。（穴位置をマーキングする）
- ・ 墨出しが済んだら、電動ドリルにてφ4の下穴を開け、同梱の皿タッピングビス②にて支柱ベースプレート部分を仮固定する。
- ・ 再度、水平器にて進行方向、左右方向の垂直度を微調整しながらA部拡大図2に示す通り、φ3.5の下穴を開け、丸木ネジ③にて段鼻へ固定する。
- ・ 最後に支柱ベースプレートの皿タッピングビスを本締めする。

※支柱の垂直度は水平器などで必ず確認してください。
 ※最上段支柱は全ての基準となります。垂直度、設置位置共に高い精度にて取付してください。
 ※プランによっては、P.5の壁固定ブラケットを先に位置出し、下穴まで開ける必要がある場合があります。
 あらかじめ図面を確認してください。

A部拡大図1

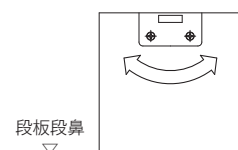
垂直確認!



⚠ 注意

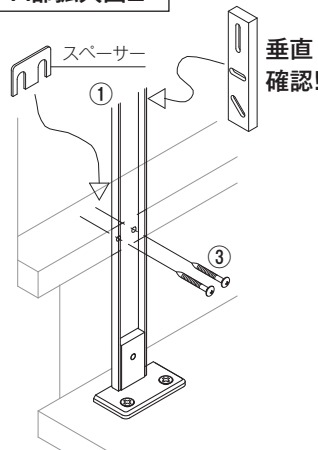
- ・ 皿タッピングビスが斜めにならないように注意。
- ・ 段板材にヒビが入らないように注意。

ベースプレートが段板段鼻に対してねじれていないかチェック。



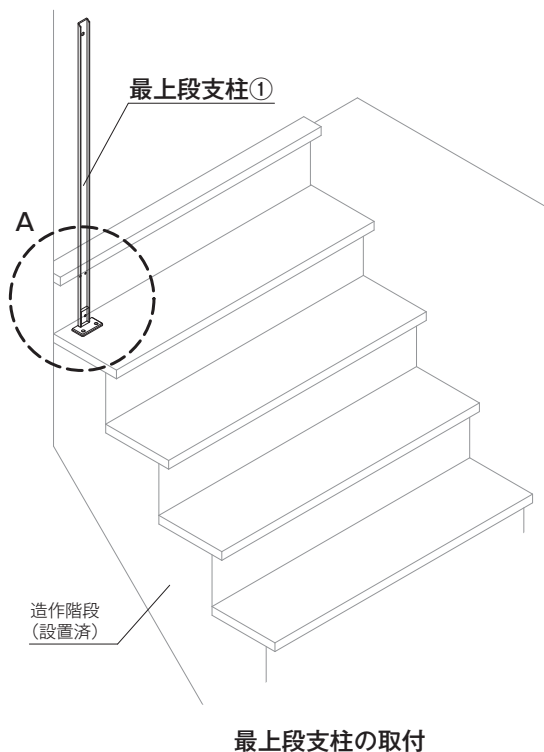
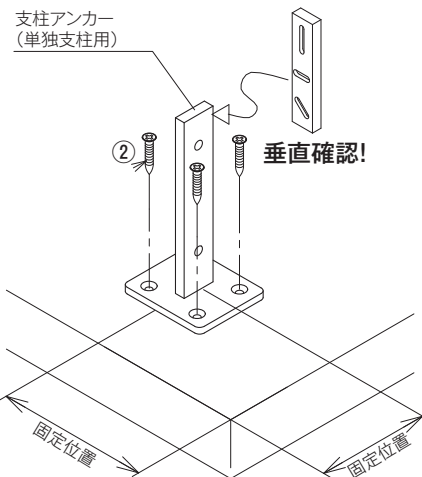
ベースプレート平面図

A部拡大図2



最上段に単独支柱がある場合

※単独支柱がある場合、割付図寸法に従ってアンカーを設置する。



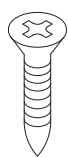
最上段支柱の取付

① 支柱カバーセット 階段部（アンカー側）



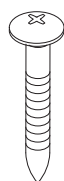
STKS0891-P-□

② 皿タッピングビス φ6×35



同梱部品

③ 丸木ネジ φ5.1×63



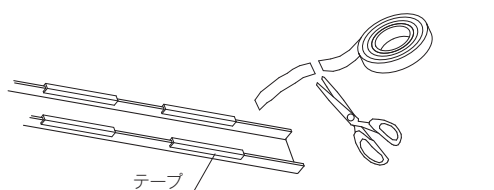
同梱部品

基本スパンの取付

- ・まず図1に示すように、全ての36幅支柱に同梱の緩衝テープを貼り付ける。
- ・図2及びB部拡大図に示すように、基本スパン④を端部カバーに被せて設置し、化粧ボルト⑤にてスパン下部を固定する。
- ・スパン本体の下支柱については、[手順1]同様に墨出しを行い、固定する。
- ・垂直度がどうしても出ない場合は、P.2のA部拡大図2に示す同梱のスペーサーを差し込んで調整する。
- ・同じ手順を繰り返し、一番下のスパンまで取付を完了させる。

※支柱ベースプレートの位置はそのまま支柱ピッチとなります。
必ず手すり割付図を参照し、位置の墨出しを行ってください。

15cm程度にテープをカットし、支柱1本につき6箇所程度、36mm幅の支柱の小口に貼り付けてください。



⚠ 注意

支柱を抱き合わせた時にテープが外側からはみ出さないように貼り始めの位置は内側の底面を基準に貼ってください。

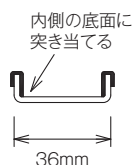


図1 緩衝テープの貼付

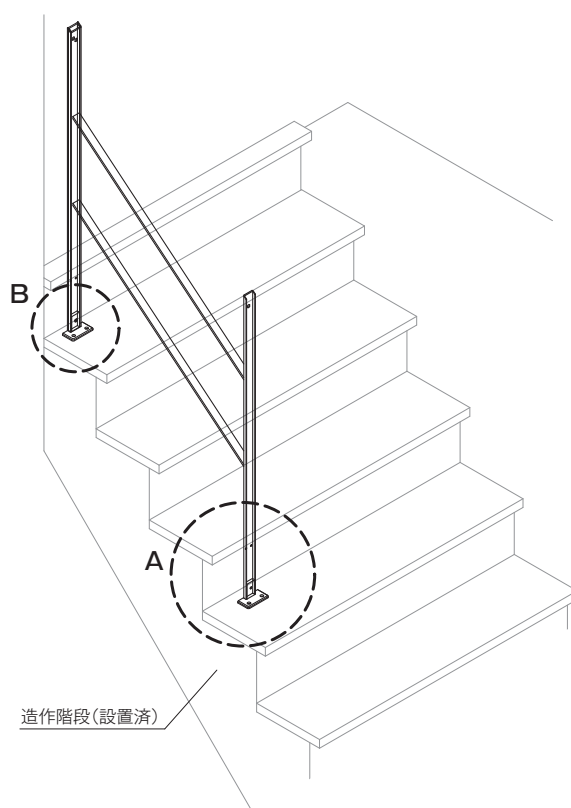
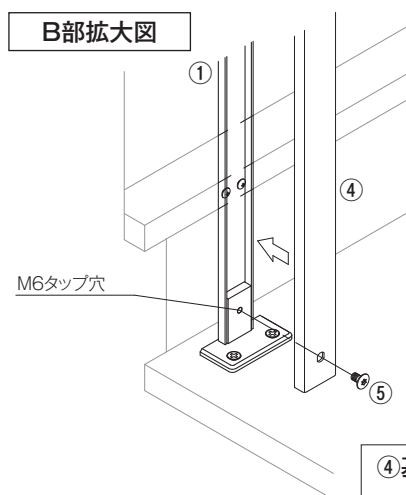


図2 基本スパンの取付

④基本スパン 階段部



STKB0191-P-□

⑤ヘックスローブ
化粧平ボルトM6×10

同梱部品

⑥支柱緩衝テープ

スポンジテープブラック
片面粘着

同梱部品

トURREールの取付

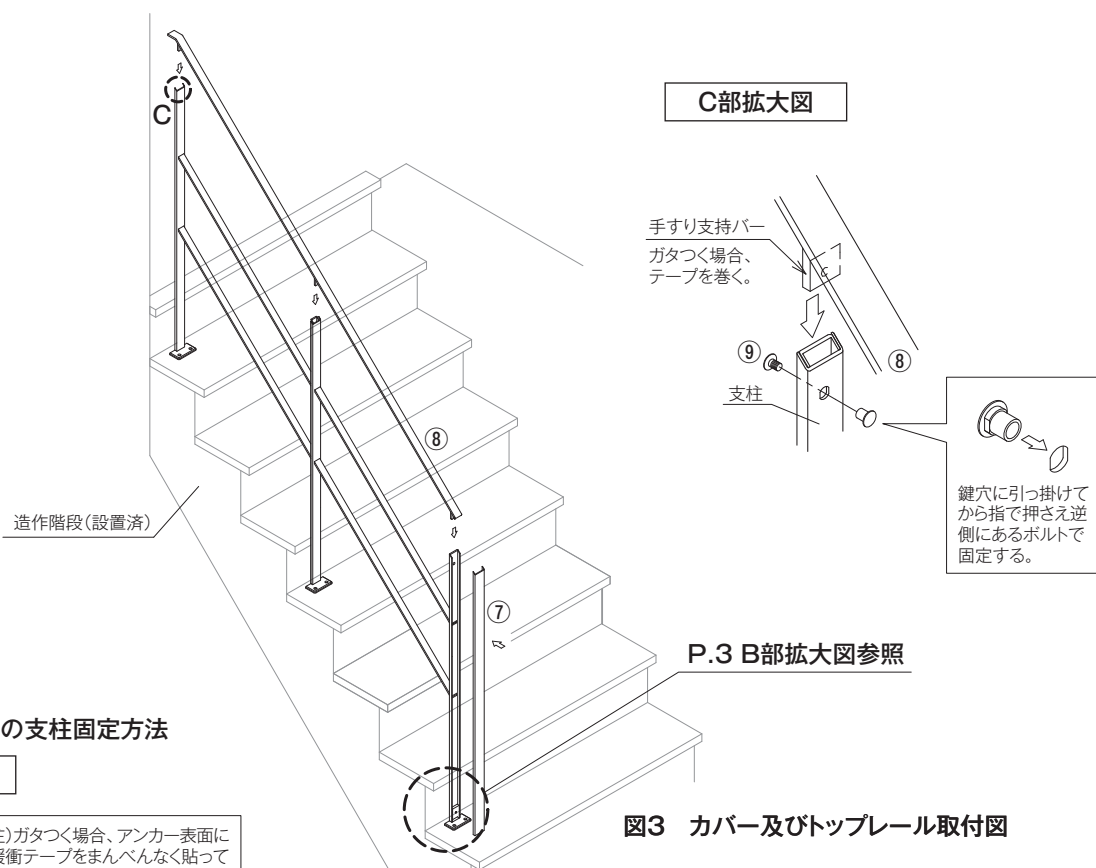
- ・図3のようにトURREールを支柱上から配置し、C部拡大図に示すとおり支柱上の中空部へ、あらかじめ溶接されている支柱支持バーを全ての支柱に差し込む。
- ・支柱とトURREールとの隙が無いことを確認後、化粧ボルトナット⑨にて固定する。このとき、トURREールの通りが出ていることを確認する。

⚠ 注意

横桟が反っていたり、支柱が曲がって付いていないか確認する。
支柱にガタつきが無いか確認する。
また、支柱がガタつく場合は緩衝テープをアンカー表面に貼って調整する(アンカー表面と支柱の接触面積が少ないと、ガタつきにつながります)。
支柱の固定は、ボルトに緩み止め機能があるので締めきっているかどうか必ず最後に支柱を揺らしてカタカタ鳴らないか確認する。

支柱端部カバー(前)の取付

- ・P.3のB部拡大図に示すように、42幅支柱カバーセット⑦を被せて設置し、化粧ボルトにて支柱下部を固定する。
- ・また、単独支柱がある場合は、下の詳細図に示すように支柱を挟み込んで化粧ボルトナット⑨にて固定する。



単独支柱がある場合の支柱固定方法

単独支柱下部詳細

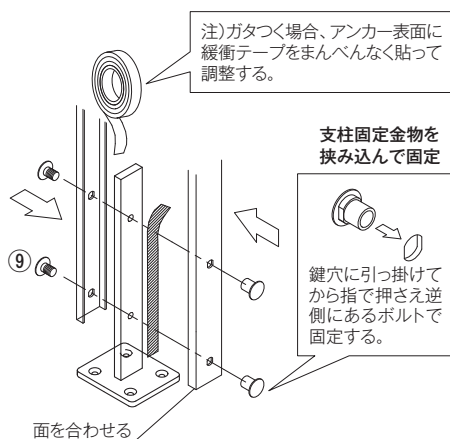


図3 カバー及びトURREール取付図

⑦支柱カバーセット 階段部



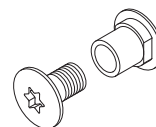
STKS0891-P-□

⑧トURREール 階段部



STKT0091-P-□

⑨ヘックスローブ 化粧平ボルトナットセットM6×10



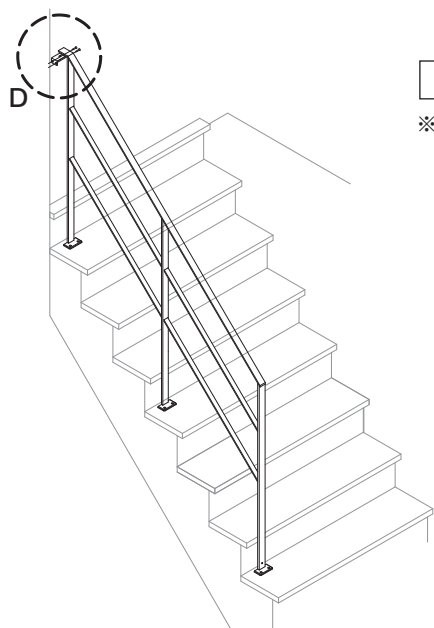
同梱部品

壁固定ブラケットの取付

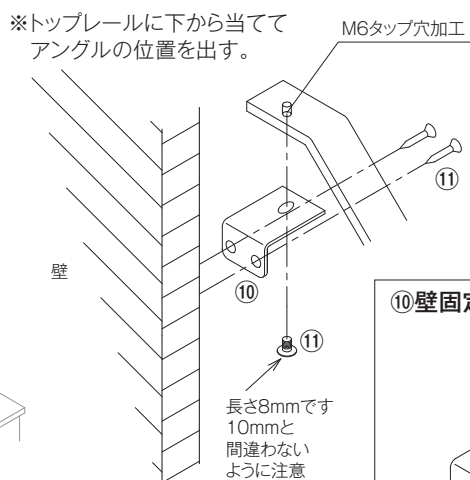
- ・図4及びD部拡大図に示すとおり、トップレール下からブラケット⑩を当てて位置出しを行い、下穴φ3を開けてトラスタッピングφ4⑪にてブラケットを壁固定する。
 - ・また、ブラケット下から化粧ボルトM6×8⑪にてトップレールと固定する。
- この時、ルーズ穴を使って支柱の垂直度の若干の調整が可能。

⚠ 注意

手すり枠(トップレール)の通りが出ていることを必ず確認する。
手すり枠から、支柱上部の小口がはみ出していないか確認する。
トップレールの固定は、ボルトに緩み止め機能があるので締めきっているかどうか必ず最後に支柱を揺らしてカタカタ鳴らないか確認する。



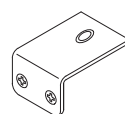
D部拡大図



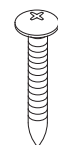
⚠ 注意

ブラケットの取付向きによっては、支柱を取付する前にあらかじめ壁固定用の下穴を開けておく必要がある場合があります。
邸別図面にて確認をお願いします。

⑩壁固定ブラケット



⑪ブラケット固定ビスセット



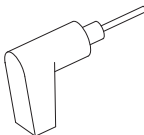
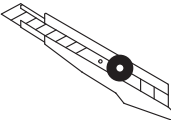
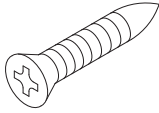
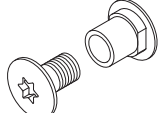
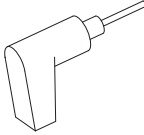
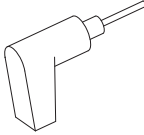
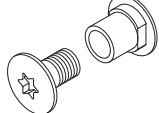
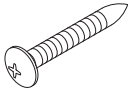
ヘックスローブ
化粧平ボルト
M6×8

トラスタッピング
φ4×35

同梱部品

図4 本体完成図及びブラケットの取付

Ⅱ. 室内吹抜け手すり

施工フロー	注 意 点	使用 工 具	主 要 締 結 部 品
躯体条件 階上階下フローリング 施工完了 吹抜け側内壁の仕上完了 吹抜け框の施工完了 支柱固定金物の取付	納入タイミング 取付タイミング 金物固定ピッチ 搬入時の傷、 床面の損傷	※コーナー用インパクトドライ バー、ロングビット等があると施 工しやすいです。  電動ドライバー ※+ドライバービット 2番、3番 ※キリ:φ3、φ4  カッター、はさみ	 床面固定用皿木ネジ φ5.8×63
横桟手すりスパンの取付	抱合支柱の 連続ルール	 ヘックスロープ (T-27)ラチェット (付属)	 ヘックスロープ 化粧平ボルトセットM6×10 (支柱固定用)
※階段手すりとの 接続がある場合 階段手すり接続部の取付	階段横手すり支柱 の垂直 床面の損傷 異音等の確認 (テープ等による緩衝処置)	 電動ドライバー ※ヘックスロープ T-27ビット(付属)	 ヘックスロープ 化粧平ボルトM6×10 (ブラケット接続用)
トップレールの取付	壁面の損傷 天板の段差 及び通り	 電動ドライバー ※ヘックスロープ T-27ビット(付属) ※施工の際は、必ずビス・ボルトサ イズに合う工具を使用してくださ い。ビス頭がなめたり、ビスが破 壊する原因となります。	 ヘックスロープ 化粧平ボルトセットM6×10 (支柱固定用)  ヘックスロープ化粧平ボルト M6×8 (ブラケット固定用)  トラスタッピングφ4×35 (壁固定用)
施工後の養生	※施工後は、傷防止のため、養生シート、ダンボール、ベニヤ等で、製品のゴミをふき 取ってから養生してください。養生の際は塗装面にテープを貼らないようにご注 意ください。なお、やむを得ずテープを貼る際は、長期間に渡って貼るのを避け、 低粘着の養生専用テープをご使用ください。		

手 順

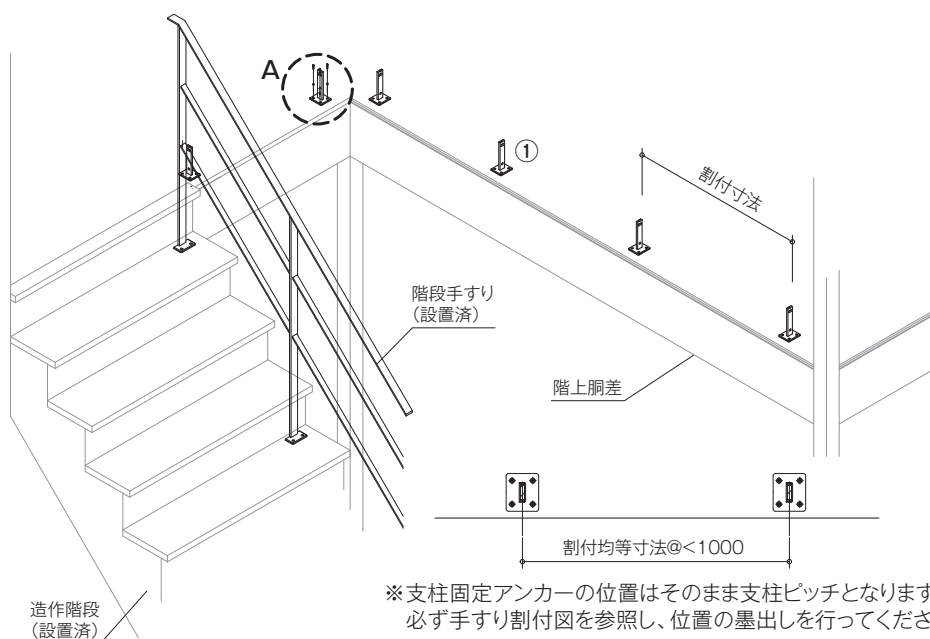
1

支柱固定金物（支柱アンカー）の取付

- ・ 邸別割付図を参照し、支柱固定アンカー①の取付位置の墨出しを行う。墨出しが済んだら、電動ドリルにてφ4の下穴を開け、図1、図2断面図に示す位置に支柱固定アンカーをセットし、同梱の皿木ネジφ5.8②にて支柱固定アンカーを仮固定する。
- ・ 再度、金物位置が合っていることを確認したら、同様に全てのネジを本締めする。

※金物の垂直度は水平器などで必ず確認してください。

※本図は標準支柱タイプですが、テーパー支柱タイプ（詳細は裏表紙をご確認ください）も手順は同様です。



※支柱固定アンカーの位置はそのまま支柱ピッチとなります。
必ず手すり割付図を参照し、位置の墨出しを行ってください。

図1 支柱金物の取付

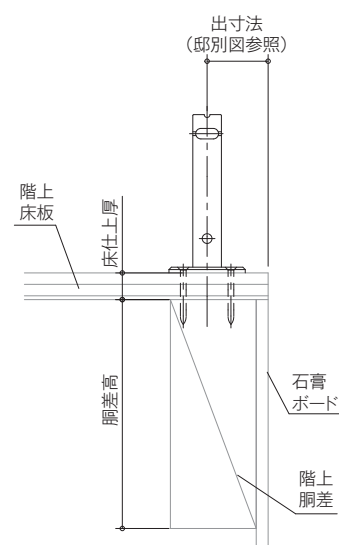
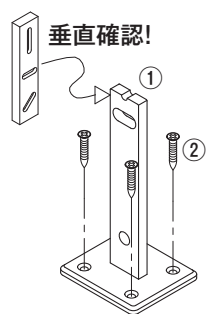


図2 断面図

A部拡大図

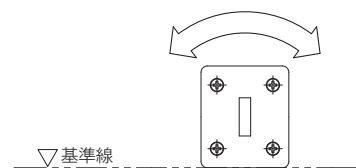


垂直確認!

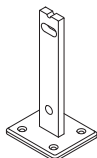
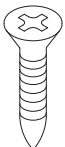
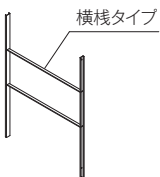
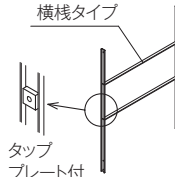
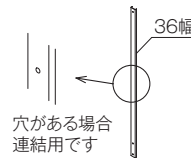
⚠ 注意

- ・ 3番ビット使用のこと。ロングビットがあるとビスをまっすぐ打てます。
- ・ 皿木ネジが斜めにならないように注意。
- ・ フロア材にヒビが入らないように注意。

支柱固定アンカーが基準線に対して
ねじれていないかチェック。



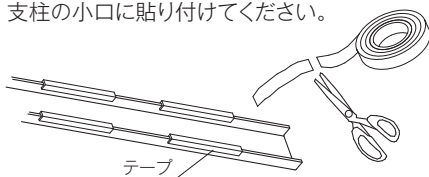
支柱固定アンカー平面図

①支柱固定アンカー  STHAF91-□	②皿木ネジφ5.8×63 (床面固定用)  同梱部品	③基本スパン(中間) 水平部  横桟タイプ STHB0191-P-□	④基本スパン(連結用) 水平部  横桟タイプ タップ プレート付 STHB0191-P-□	⑤支柱カバーセット 水平部  36幅 穴がある場合 連結用です STHS1191-PA-□ STHS1191-P-□
---	---	--	---	---

基本スパンの取付

- ・まず図3に示すように、全ての36幅支柱に同梱の緩衝テープを貼り付ける。
- ・図4に示すように、中間部の手すりスパン③を、邸別割付図に従って配置する。
- ・階段手すりとの接続がある場合、タッププレート付スパン④を階段際に配置する。
- ・支柱固定アンカーに被せて配置し、垂直度を調整の上、A～C部拡大図のとおり、化粧ボルトナット⑦にて固定する。

15cm程度にテープをカットし、支柱1本につき6箇所程度、36mm幅の支柱の小口に貼り付けてください。



⚠ 注意

支柱を抱き合わせた時にテープが外側からはみ出ないように貼り始めの位置は内側の底面を基準に貼ってください。

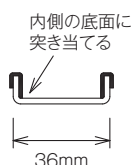


図3 緩衝テープの貼付

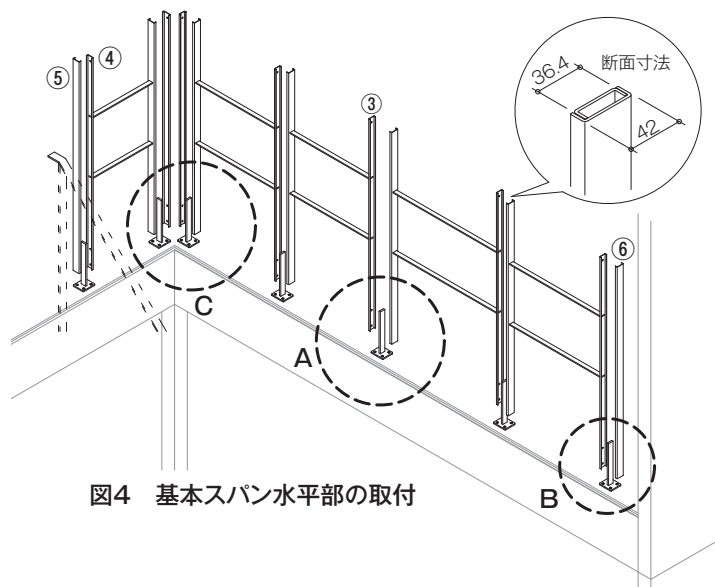
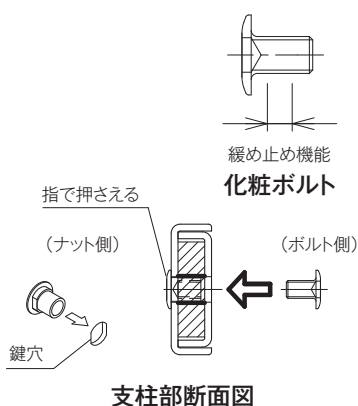


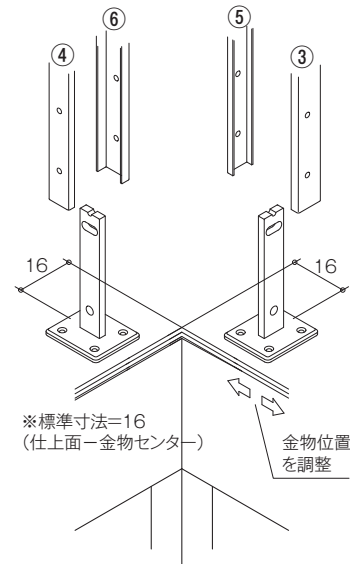
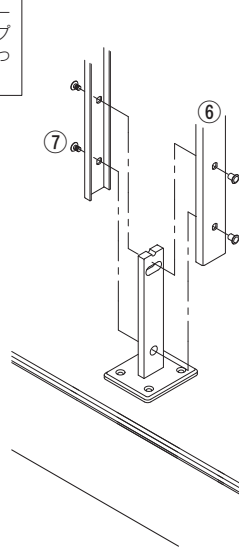
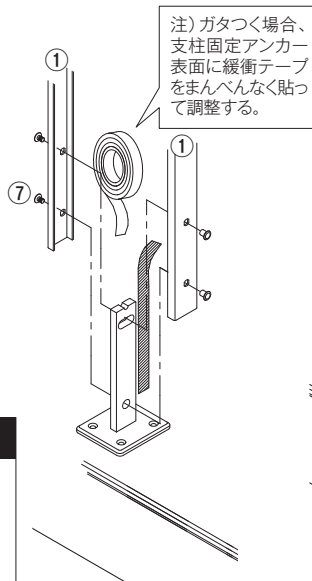
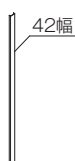
図4 基本スパン水平部の取付

A部拡大図
(一般支柱下部)B部拡大図
(壁部支柱下部)C部拡大図
(入隅部支柱下部)

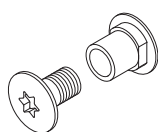
支柱部断面図

⚠ 注意

化粧ボルト⑦での支柱の固定は、ボルトに緩め止め機能があり、硬くなります。締めきれているかどうか必ず最後に支柱を揺らしてカタカタ鳴らないか確認する。

⑥支柱カバーセット
水平部

STHS1191-P-□

⑦ヘックスローブ
化粧平ボルトナット
セットM6×10

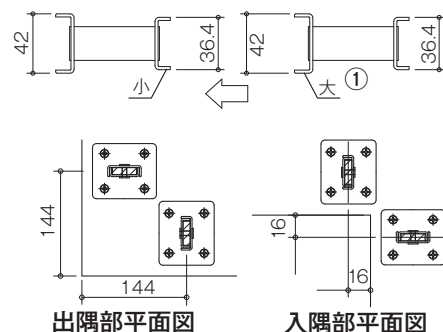
同梱部品

吹抜け側

【連続ルール】
必ず吹抜け側から見て、スパン左側の支柱が42幅で隣の支柱に被さって連続する。

《標準寸法図》

邸によっては変更する場合があるため、必ず割付図を確認してください。



トップレールの取付

壁固定ブラケットの取付

- ・トップレールの壁当部（A部）の位置を先に墨出しておき、A部拡大図に示すように壁固定ブラケット⑩をトラスタッピング⑬にて壁の下地に固定する。

トップレールの取付

- ・図1に示すように、トップレール⑧を割付図に従って配置し、B部拡大図に示すように、支柱上の中空部へ手すりに溶接された固定バーを差し込み、前後へのズレを調整後化粧平ボルトセット⑫にて固定する。端部スパンとのジョイント部は、天場の段差がないことや、トップレールの通りを良く確認後、固定する。（直部ジョイント部、C部）
- ・次に、壁に先付けしておいた壁付アングルとトップレール端部をA部拡大図に示すように、化粧ボルト⑬にて固定する。
- ・また、階段手すりとの接続がある場合、D部拡大図に示すように、手すり接続部材⑪をトップレール下と支柱に当てて、ルーズ穴で位置調整しながら手すり接続ビスセット⑭にてタップ穴に固定する。

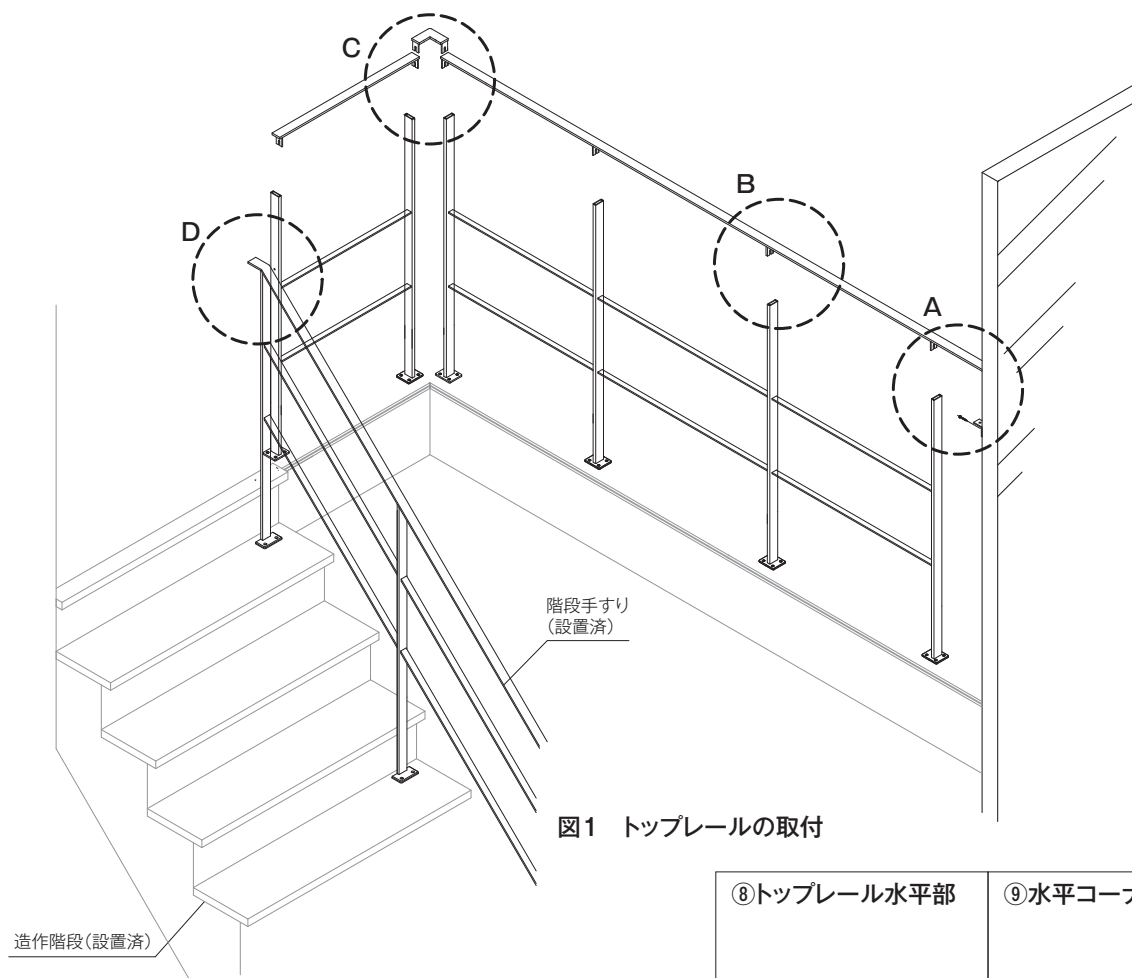
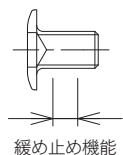
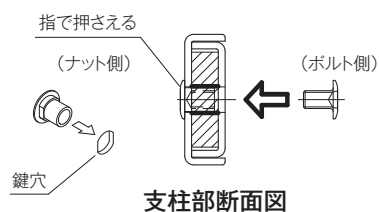
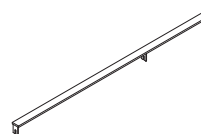


図1 トップレールの取付

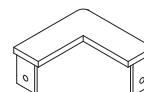


⑧トップレール水平部



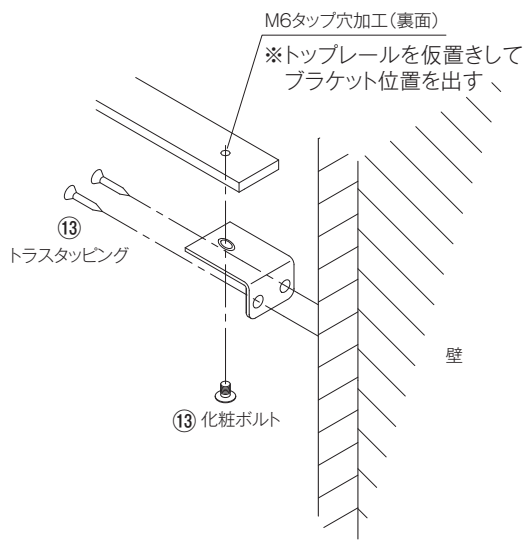
STHT0191-P-□

⑨水平コーナー部材

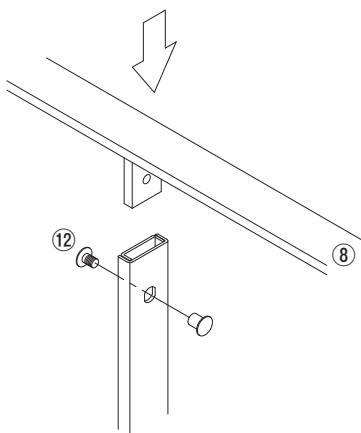


STJCF91-□

A部:壁固定部詳細

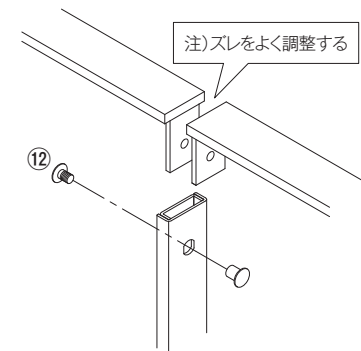


B部拡大図

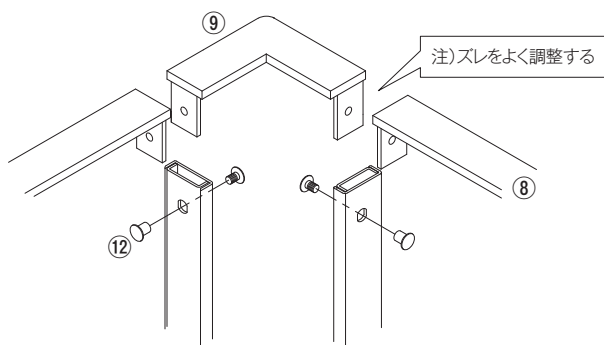


中間ジョイントがある場合

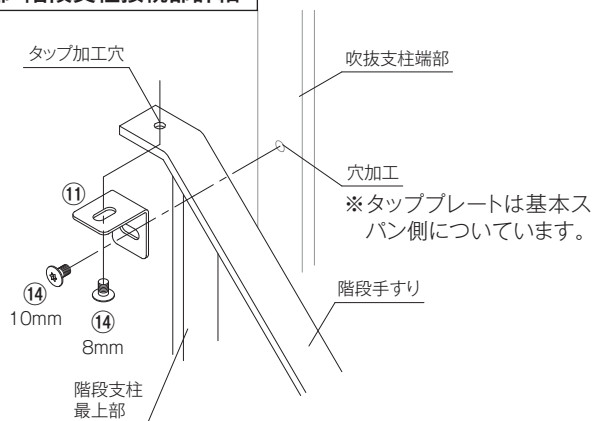
直部ジョイント部拡大図



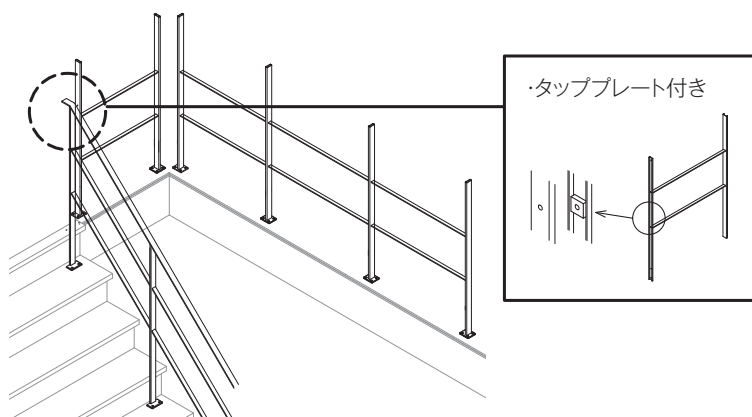
C部拡大図(出隅、入隅部)



D部:階段支柱接続部詳細



※D部:階段支柱接続部詳細 水平部基本スパンを2スパン以上使用する場合



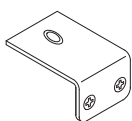
⚠ 注意

階段部と接続する水平部の基本スパン1つのみにタッププレートが取り付けられております。2スパン以上の水平部を取り付ける際、タッププレート付きの基本スパンが接続部に来ることを確認して取り付けください。

⚠ 注意

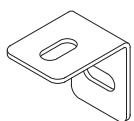
・手すりの取付完了後、手すりの揺すりでガタツキや音鳴りが無いことを確認してください。音が出る場合は、音の発生箇所に同梱の緩衝テープを貼り、異音を除去してください。
・トップレールの通りが出ていることを再度確認してください。不陸や段差のズレなどがあれば、調整してください。

⑩壁固定ブラケット



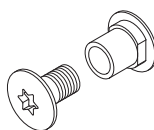
STJWF91-□

⑪手すり接続部材



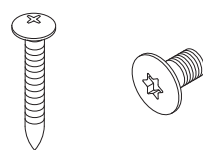
STJLF91-□

⑫ヘックスローブ化粧平ボルトナットセットM6×10



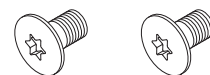
同梱部品

⑬ブラケット固定ビスセット



トラスタッピング
φ4×35
ヘックスローブ化粧平ボルト
M6×8

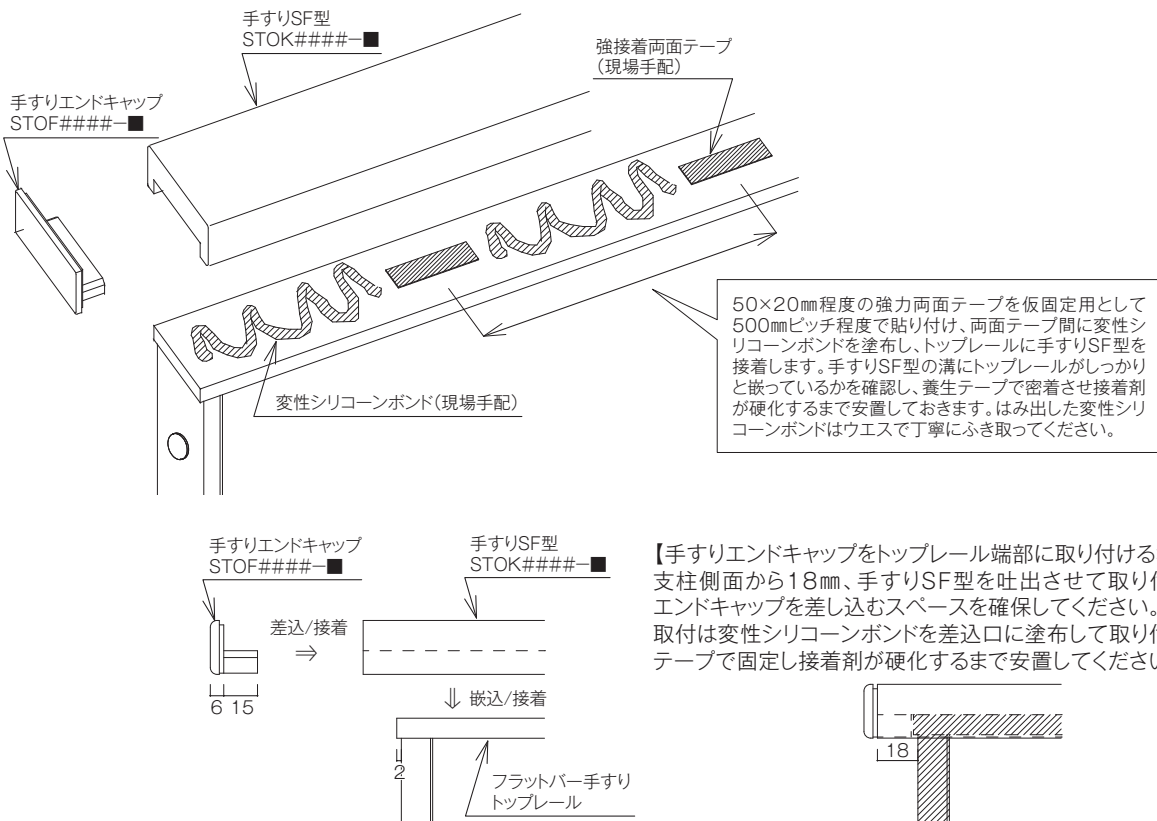
⑭手すり接続ビスセット



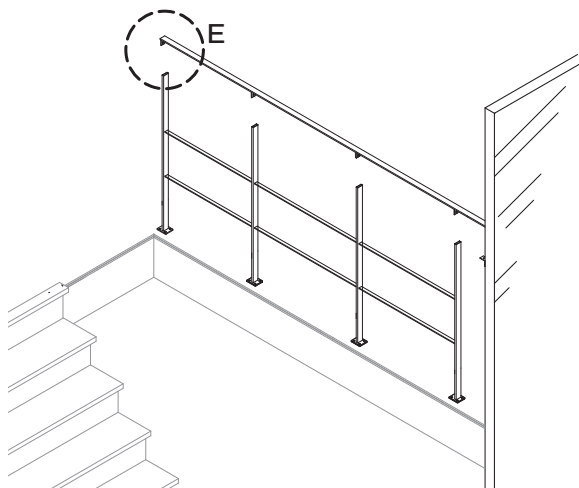
ヘックスローブ化粧平ボルト
M6×8
ヘックスローブ化粧平ボルト
M6×10

スチールフラットバー手すりに手すりSF型(木製笠木)を取り付ける場合

手すりSF型はスチールフラットバー手すりのトップレール形状に合わせて現場加工を行い取付けます。トップレールの形状によっては、手すりSF型の取付けが出来ない場合があります。勾配が変わる箇所等に合わせて木製笠木をカットして木口をタッチアップで仕上げて下さい。



テーパー支柱について



標準支柱タイプは、トップレール両端部が支柱、壁と連結・固定されますが、片側が固定されない場合(E部)テーパー支柱を使用します。

標準
支柱タイプ

50
42
H
42
80

テーパー
支柱タイプ

50
42
H
65
80

施工終了後

- 施工終了後は、接着剤の硬化(夏期:約1日、冬期:約2日)を待って、フィニッシュネイルの痕などをフィルスティックで補修ください。必ず、フィニッシュネイル等の頭が飛び出していないか確認してください。
- 手すりがぐらついたり、キシミ音がしないか確認してください。嵌合が緩かったり、固定が緩いとぐらついたりキシミ音が発生することがあります。この場合は、嵌合部が確実に固定されているか、再度確認ください。
- 施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、養生シートで養生してください。その際、接着力の強いテープを使用すると塗装が剥がれることがありますので、テープを手すり部材に直接貼らないようにしてください。
- 手すり、子柱が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を固く絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。